



車内の金城学院大学

143限目

「古典文化講義」

「「花」で疫病を鎮めるお祭りがある？」

[日本文化の中の疫病]

京都には、平安時代から続く「三大奇祭」として、「鞍馬の火祭」「太秦の牛祭」「やすらい祭」があります。このうち「やすらい祭」は「鎮花祭(はなしずめのまつり)」とも呼ばれ、桜の花が散るころに行われる疫病退散を願うお祭りです。平安時代、疫病が流行り出すのがちょうど桜が散る季節であったため、当時の人々は、災いをもたらす厄神が舞い散る桜に誘われて現れ、疫病を振り撒くと考えたのです。そこで、やすらい祭では生花で彩られた大きな笠を持って人々が街を練り歩き、そこへ厄神を誘い込み、笠ごと神社へ奉納することで厄神を鎮めています。このお祭りの発祥は千年以上も前のことですが、この頃から人々は疫病を封じ込めるために様々なことを考え、お祭りというかたちを通して力を合わせてきたのです。

現代の視点から歴史を見つめ、日本の文化を理解する。それが文学部 日本語日本文化学科。

強く、優しく。



金城学院大学